

## 平成 28 年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

1. 明るく健康で、自らを高め、他人を尊重する、人間性豊かな人格の完成をめざす。
2. 工業教育を通じて、規範意識を身につけさせ、勤労と責任を重んじ、幅広い技術をそなえた社会人を育成する。
3. 北摂唯一の府立の工業高校として、「ものづくり」の技術と技能、知識によって将来の地域社会を担うことができる人材を育成する。
4. 府立の工科高校における高大連携重点型校として、大学等と連携した工業教育で、技術と理論を兼ね備えたエンジニアを育成する。

## 2 中期的目標

- 1 「確かな学力」の育成
  - (1) 新学習指導要領を踏まえ、基礎的・基本的な学力の定着をめざした授業改善に取り組む。
    - ア 少人数授業、授業評価、ICTの活用、研究授業等を通じて、より「わかりやすい授業」をめざして組織的に授業改善に取り組み、中退率改善を図る。
    - ※ 平成 25 年度入学生から導入した「学び直し」のための学校設定科目「工業入門」を発展、充実させ、基礎的・基本的な学力の定着をめざす。
    - ※ 生徒向け学校教育自己診断における「授業は分かりやすく楽しい」の肯定的な評価の目標を 50%以上とする。(平成 27 年度 36.6%)。
    - ※ 中退率 4%未満をめざす。
- 2 安全安心で魅力ある学校づくり
  - (1) 生徒の規範意識を醸成し、規律ある学校生活を送らせるとともに、個々の生徒への支援体制を充実させる。
    - ア 挨拶、身だしなみ等、社会人として求められる礼儀を身につけさせるため、基本的な生活習慣の確立と規範意識の醸成に努める。
    - イ 教育相談体制を充実させるとともに、人権教育・支援教育を推進する組織の活性化を図る。
  - (2) 生徒の健康管理・安全衛生の意識を高めるとともに、事故のない安全な学校づくりに取り組む。
    - ア 生徒保健委員会を活用し、校内美化の取り組みを推進する。
  - (3) 生徒会活動、部活動を通じて生徒の自己有用感を醸成するとともに、集団や学校への帰属意識を高める。
    - ア 行事、生徒会活動、部活動の活性化を図り、生徒自らが課題意識をもって学校生活を送れるよう支援する。
    - ※ 年間遅刻総数について、4000 以下に削減することを目標とする。
    - ※ 学校管理下での事故、特に「実習中の事故ゼロ」を継続する。
    - ※ 部活動の加入率 50%以上をめざす。(平成 27 年度 42%)。
- 3 自立・自己実現の支援（～工科高校の理念である「専門分野の深化」と「高等教育機関への接続」の推進～）
  - (1) キャリア教育・職業体験教育の充実に努める。
    - ア 「インターンシップ」等の体験的学習を重要な教育活動として位置づけ取り組む。
  - (2) 資格取得指導等を通じて、生徒に達成感、成就感を醸成し、進路実現への意欲を高める。
    - ア 資格取得や就職試験に向けた全校的な協力体制を推進する。
  - (3) 理工学系大学等の高等教育機関への進学を希望する生徒の支援を強化し、ものづくりマインドを持った将来の高度技術者の育成をめざす。
    - ア 平成 26 年度開設の工学系大学進学専科における理工学系大学等への進学希望者の進学率 100%をめざす。
  - (4) 全国工業高等学校長協会の 100 周年記念事業「小型人工衛星打ち上げプロジェクト」の製作協力校として、打ち上げに参画する。
    - ア 大阪府立大学工学研究科小型宇宙機システム研究センター等の関係諸機関と連携を図りながら、生徒に技術・技能を学ばせる。
    - ※ 学校紹介による就職内定率 100%を堅持するとともに、3 年後の離職率を 30%以下にする。
    - ※ インターンシップの参加者数の目標を 35 人とする(平成 27 年度 17 人)。
- 4 地域連携・地域貢献の取り組みの推進
  - (1) 地域の中学校教員との情報交換(中高連絡会)や学校訪問、出前授業等の充実を図るなど、中高連携を推進し、アドミッションポリシー(求める生徒像)が中学生、保護者等に明確に伝わるよう学校情報を積極的に発信する。
    - ア 生徒・保護者向けの学校説明会等に加え、中学校教員向けの施設見学会等を実施することにより、中学生、保護者、教員等の工科高校への理解(工科高校の「再発見」)を促し、志願者増加につなげる。
  - (2) 学校設定科目「課題研究」における「ものづくり」技術を活用した地域貢献活動を通じて、生徒に自尊感情・自己有用感を醸成する。
    - ア 平成 27 年度から実施している課題研究発表会を定着、発展させ、プレゼンテーション能力を育成するとともに、地域に積極的に公開し、工科高校の特色を広く伝える。
    - ※ 中学校訪問数延べ 100 校以上を継続する。
    - ※ アルミ製朝礼台等の製作・寄贈、茨木市イルミネーション事業等への参画を継続する。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 29 年 2 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>&lt;生徒&gt;昨年と比較して、37 項目中 34 項目がアップした。大きく上がったのは、危機管理体制の周知と授業満足度であった。今年度、HP に危機管理体制について掲載したこと、相互授業見学をするなど教員の授業改善意欲が高まったこと等が要因であると考えられる。</p> <p>&lt;教員&gt;昨年比 33 項目中、24 項目がアップ。</p> <p>「学校は生徒のニーズにこたえている」が 25.5%、「校内研修が確立し、計画的に実施されている」が 24.3%、「豊かな心を持った生徒育成に努力している」が 15.3%と大幅にアップした。職員集団の「前向きさ」や多様な生徒に対する「丁寧さ」が向上している結果であると考察される。</p> <p>「部活動が盛んである」が 17.8%も下がったのは今後の課題である。</p> <p>「生徒から気軽に相談ごとを持ちかけられる」 81.3⇒67.3 14.0%↓</p> <p>&lt;保護者&gt;昨年比 32 項目中 28 項目がアップ。</p> <p>「進路指導においてきめ細かな指導を行っている」が 23.8%、「保護者が授業を参観する機会を良く設けている」14.5%、「学校は教育情報の収集や提供の努力をしている」が 12.7%と大きく上がった。「開かれた学校づくり」が進んでいる表れであると考えられる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 初任者公開授業において、授業者（初任者）が前もって授業のアピールポイントを伝えてから公開授業を行ったほうが見学する者にとってわかりやすいのではないかと。</li> <li>・ 地域の文化展等に積極的に参加していただきたい。</li> <li>・ 生活指導は粘り強い取り組みにより、効果が出ている。</li> <li>・ 難関大学に合格できるような学習指導と進学指導の取り組みが必要である。</li> <li>・ 高大連携における連携大学数の増加を図って欲しい。</li> <li>・ 課題研究の表彰制度を設立してはどうか。</li> </ul>

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1. 「確かな学力」の育成	(1) 基礎的・基本的な学力の定着をめざした授業改善の取組み ア 少人数授業・研究授業等の取組み イ 中退率改善をめざす取組み ウ 「学び直し」を活用した基礎・基本的な学力の定着をめざす取組み エ 家庭学習の習慣を身につけさせる取組み オ 授業公開の取組み (2) 工学系大学進学専科における取組み ア 理工学系大学等で高度な知識、技術を学ぶための確かな学力をつける取組み	(1) ア 加配等を活用し、1年生の数学、英語で1クラス2展開授業、習熟度別授業を実施するほか、家庭科、芸術、理科ではTTによる授業を実施する。 イ 生徒のニーズや実態を把握するために、教育産業の支援を受けて基礎力診断テストを実施することにより多角的な分析を行い、中退率の改善に活用する。 ウ 学校設定科目「工業入門」について、生徒のニーズ・取組み状況等を把握し、計算技術検定の合格をめざすなど、教材、授業方法等に修正を加えながら生徒のやる気を引き出す。 エ 各教科で教育産業の教材を活用するなど、積極的に宿題を課す。 オ 初任者、経験年数の少ない教員を中心に、自主的な授業公開・研究協議を6月及び11月に実施する。また、保護者への授業公開の機会を5月に加え、1月にも設定する。 (2) ア 理工学系大学等での学びを意識し、大学進学専科の完成年度であることを踏まえ、基礎から応用に発展する数学、理科、英語の充実及び専門科目の精選、再編を教科・系の連携のもと、組織的に図る。	(1) ア 生徒アンケートによる満足度「授業はわかりやすく楽しい」50%以上 (H27 36.6%)。 イ 中退率4%未満 (H27 4.2%)。 ウ 数学基礎診断テストの2回目の成績5ポイント以上 上昇 (H27 3.9ポイント)。 エ 教育産業の基礎力診断テストにおける学習到達ゾーンの上昇。 オ 全クラスでの公開授業実施。 (2) ア 理工学系大学進学希望者の進学率100%。	(1) ア 生徒アンケートによる満足度は46.5% (昨年度より9.9%アップ)であった。(○) イ 中退率は5.1%であった。(△) ウ 計算技術検定4級合格率は70.2%であった。(○) 数学基礎診断テストの2回目は3.0ポイント上昇した。(○) エ 学習到達ゾーンD2以上は、4月次53.7%、2月次50.7%で、3.0%減少した。(△) オ 全クラスで公開授業を実施するとともに、初任者の研究授業と研究協議を2回実施、2学期にはベテラン教諭の模範授業を公開した。また、今年度初めて保護者の授業公開を2回実施した。(○) (2) ア 理工学系大学進学希望者の進学率94.4% (○) カリキュラムの精選については、今年度、進める事ができなかった。今後の課題である。(△)
2. 安全安心で魅力ある学校づくり	(1) 規範意識を身につけさせ、個々の生徒への支援体制を充実させる取組み ア 遅刻数削減の取組み イ 教育相談体制の充実 (2) 生徒の健康管理・安全衛生の意識を高める取組み ア 生徒保健委員会の活用 (3) 生徒会活動、部活動を通じた生徒の自己有用感、帰属意識の醸成 ア 行事、生徒会活動、部活動の活性化	(1) ア 遅刻ゼロの日、生活強調週間、登下校指導の強化等、生徒の意識を喚起する取組みを全校あげて組織的に推進するとともに、平成27年度において、遅刻数削減に大きな成果をあげたことを踏まえ、「遅刻指導」の内容のさらなる改善を図り、引き続き大幅な削減をめざす。 平成26年度に導入した身だしなみ、授業規律違反カード制を改善、徹底し、一層規律ある学校生活を送らせる。 インターネットやスマートフォンの利用等、情報の取り扱いについての基礎的な資質や能力を講演会、教科指導(情報技術基礎)を通じて養い、情報モラルの育成を図る。 イ スクールカウンセラー、支援教育コーディネータ等の活用を通じて、個に応じた支援を充実させる。 (2) ア 行事後、考査前の一斉清掃に徹底して取り組み、校内美化を推進する。 (3) ア 生徒会主催の校外清掃活動を実施するとともに、募金活動等、社会貢献につながる活動に取り組む。 部活動を活性化し、生徒の加入率の向上に努めるとともに、施設設備の充実に取り組む。	(1) ア 遅刻総数4000(前年度比20%削減)(H27 前年比55%減で約5000)。 身だしなみ、授業規律に係る懲戒指導件数の10%減。(平成27年度58件) ケータイ・インターネットトラブルに係る懲戒件数の減少。(平成27年度5件) イ 学校教育自己診断の教育相談関連の肯定的回答の5%増加(H27 34%)。 (2) ア 保健安全指導部による清掃点検における○(良好)の増加。 (3) ア 参加生徒数200名以上。(平成27年度204名)地域住民との交流。 加入率45%以上。(H27 42%)	(1) ア 遅刻数は、3920件で、目標としている4000件以下を達成できた。(◎) 「授業規律違反カード」の改善、定着により生徒の授業規律は改善している。身だしなみ、授業規律による懲戒は減少した。(10件)。(◎) ケータイ・インターネットに係る懲戒の件数は0件であった。(◎) イ 学校教育自己診断において教育相談関係の肯定率は38%(昨年度より4%増)であった。(○) (2) ア 清掃点検における良好の割合は、昨年度84.75%、本年度は91.5%で7%増加した。(◎) (3) ア 参加生徒は207名で目標を達成した。また、地域住民との一斉清掃の取組みができ、地域からも良い評価を得ている。(◎) 加入率は45.7%と目標値には到達した。しかし、教員の学校教育自己診断において、「部活動が活発である」という肯定的な回答率が28%と昨年度比17.8%下がった。(△)
3. 自立・自己実現の支援	(1) キャリア教育・職業体験教育の充実 ア インターンシップ等への取組み (2) 資格取得を通じた生徒の達成感・成就感の醸成、進路実現意欲の向上 ア 資格取得や就職試験に向けた全学的な協力体制の推進 (3) 高等教育機関への進学希望生徒の支援 ア 工学系・大学進学専科における取組み (4) 小型人工衛星製作への取組み	(1) ア 地域産業との連携を深め、受け入れ先企業の安定した確保に努める。 インターンシップを体験した生徒の成果発表の場を設け、参加生徒の増加につなげる。 (2) ア 授業はもとより早朝、放課後の時間帯を活用し、生徒の資格取得を支援する。 地域企業を組織的に訪問し、求人確保、企業連携の強化に努める。 就職試験のための個々に応じた面接指導の取組みを充実させる。 教育産業の支援を受け、本人の適性をより客観的に把握することにより、就職におけるミスマッチを防止する。 (3) ア 数学・英語・理科の放課後、土曜日や長期休業中の講習や数学Ⅲにおける習熟度2展開授業を通じて、理工学系大学等の受験、入学後の学びに備える。 (4) ア 全国工業高等学校長協会の100周年記念事業「人工衛星打ち上げプロジェクト」の製作協力校として、大阪府立大学工学研究科小型宇宙機システム研究センターの支援も受けながら、人工衛星製作に求められる技術を学ばせる。	(1) ア 参加生徒35名 (H27 17名)。 (2) ア 電気系2年生の第二種電気工事士合格率70%以上。(過去5年平均68%)その他の資格取得、特に危険物取扱者乙種、旋盤技能検定3級の合格者数の増加。 企業訪問数130社以上。(平成27年度138社) 第1次就職試験合格率75%以上。(H27 71.8%) (3) ア 理工学系大学進学希望者の進学率100%。 (4) ア 宇宙環境に耐えうる電源周辺部品の製作。	(1) ア 目標には届かなかったものの、昨年度を上回る13社に30名が参加した。(昨年比75%増) (○) (2) ア 企業訪問数は132社であった。(○) 全員受験の2年生の第2種電気工事士の合格率は、92.5%で目標を大きく上回り、過去最高の成績であった。(◎) また、危険物取扱者乙種については、試験が年一回実施の5回終了時点で合格者26名(昨年同時期44名)、旋盤技能検定3級の合格者3名(昨年同数)で概ね目標を達成。(○) 第1次合格率は、75.9%で目標を達成できた。(◎) (3) ア 大阪工業大学3回、摂南大学1回、大阪電気通信大学2回、大阪産業大学1回、合計2校2回の体験授業、および4校6回の大学見学、合計40時間の大学連携授業を実施した。また、夏季休業中の補習授業を24時間実施した。理工系の大学に希望した生徒の進学率は94.4%であった。(△) (4) ア 担当の電源部分の基礎回路が完成した。 8月に人工衛星製作協力校合同合宿に参加した。 7月には大阪府立大学工学研究科と人材交流および施設の相互活用等における連携協定を締結し、連携授業を2回実施した。(◎)
4. 地域連携・地域貢献の取組みの推進	(1) 中高連携の推進 ア 中学校の生徒、保護者、教員の工科高校への理解(工科高校の「再発見」)を促す取組み (2) 「ものづくり」による地域貢献活動の取組み ア 課題研究充実への取組み	(1) ア 中学校教員向けの施設見学会等を実施する。 3つの系の連携を深め、地域の小中学校に働きかけ、出前授業を積極的に行う。 実習体験・オープンスクール・学校説明会について、反省点を踏まえ、実施方法、PR方法を改善し、参加者増加につなげる。 ホームページのさらなる充実を図り、学校情報を効果的に発信する。 (2) ア 平成27年度より実施している課題研究発表会を継続・発展させる。 アルミ製朝礼台等の製作・寄贈、茨木市イルミネーション事業への参画等の「従来のものづくり」による地域貢献活動を一層推進する。 関西サイクルスポーツセンターの若年層対象のものづくり支援事業に応募し、自転車製作する。	(1) ア 参加者数15名以上。(今年度新規事業) 5校以上の出前授業実施。 延べ参加者数500名以上、(平成27年度447名)アンケートによる満足度80%以上。 更新頻度を1週間に1回以上。 (2) ア アンケートによる満足度調査。 茨木市内の小中学校への寄贈(2台以上)、イルミネーション事業への参画を継続。 実用自転車の製作、完成。	(1) ア 参加者数は32名で目標値を上回った。(◎) 出前授業は5校で実施した。(○) 実習体験、オープンスクール、学校説明会の参加者数は601名(昨年比42%増)。アンケートの満足度は90%を超えた。(◎) 更新頻度は平均週1回以上を達成。11月に動画を多く取り入れるなどトップページを全面改訂。以後アクセス数は月平均22%増であった。(◎) (2) ア 課題研究発表会は昨年レベルで開催した。(○) アルミ製朝礼台を3台製作し、茨木市立小学校3校に寄贈予定である。また、いばらき光の回廊のイルミネーションの機材を製作し、事業の成功に貢献した。(○) 「夢の自転車」1台を製作、関西サイクルスポーツセンターに寄贈した。(○)

